

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成29年12月9日
<第8号>
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第16回講座「授業づくりの基礎⑦ ～理科観察・実験の安全指導／教材づくり～」

平成29年11月4日（土）に、授業づくりの基礎をテーマに、第16回講座が行われました。

小学校コースでは、理科の指導技術を身に付けるとともに、児童が安全に学習を行うことができる指導方法を理解することをねらいとして、小学校の理科の4領域（エネルギー・粒子・生命・地球）の内容について講義・演習を通して学びました。エネルギー・粒子分野では、東京教師養成塾 安齋 正彦教授が、生命・地球分野では、東京都教職員研修センター研修部教育開発課 羽仁 克嘉指導主事が講師として、講座を行いました。安齋教授の講義では、「基礎から学ぶ理科観察・実験テキスト」（東京都教職員研修センター 平成25年）を用いて、実験器具の確認や加熱実験を通して、観察・実験の基礎・基本を学びました。羽仁指導主事の講義では、月の満ち欠けのモデル実験や顕微鏡の使い方について理科の魅力を実感しながら、学びを深めました。

特別支援学校コースでは、児童・生徒の実態に応じた特別支援教育における教材づくりのポイントや作成した教材を生かした指導方法について理解することをねらいとして、講義や演習を通して学びました。午前中は、都立町田の丘学園 外部専門員 宮城 武久先生を講師に招き、「形の弁別」をテーマに事前課題で作成した教材の使い方について学びました。午後は、アセスメントに基づく個別学習教材の開発をテーマに、明治学院大学特命教授 吉瀬 正則先生を講師に招き、子供の変容に係るビデオの視聴や実際の教材の使い方の検討を通して学びました。

【塾生の感想より】

<小学校コース> 観察・実験の際のポイントやいかに興味・関心を引き出すかについて学ぶことができました。

<特別支援学校コース> 具体的な教具を使った指導や提示の方法を学んだ。教材・教具を生かした指導の仕方や子供の変容を見逃さない教師になりたい。



－モデル実験－



－形の弁別の実習－

●第17回講座「授業づくりの基礎⑧～外国語活動の指導力の向上・模擬授業を通して～」

平成29年11月25日（土）に、外国語活動の目標、内容、指導のポイントについて理解することをねらいとして、第17回講座が行われました。講義では、国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 直山 木綿子先生をお招きして「外国語活動における教師のはたらきかけ」をテーマに小学校における外国語教育の在り方や新学習指導要領に対応した新教材についてお話をいただきました。塾生は外国語教育の必要性や4月から教壇に立つための準備や心構えについて学びました。また、今回の講座は、連携大学に公開した講座であり、当日は約100名の受講者が参加しました。

【塾生の感想より】

- ・外国語の教科化に向けた動きや指導の要点等、講義を通して理解を深めることができました。
- ・外国語の授業では、子供にとって、必然性のある場面を設定することが大切であると学んだ。
- ・英語でコミュニケーションをとる楽しさを実感すると同時に、子供たちに英語の「楽しさ」を伝えたり、適切に指導したりできるように今からしっかりと準備していきたい。

英語に関する講座「外国語活動の模擬授業」

東京教師養成塾では、今年度、英語に関する講座を8回実施しています。第6回から第8回までの講座で、塾生が東京都の独自英語教材である「Welcome to Tokyo」を使って模擬授業を行っていきます。11月25日（土）

の第6回講座では、「3好きなアニメについて話そう！」「4お祭り遊びや食べ物をすすめよう！」をテーマに塾生が指導資料を読み、教材・教具を準備して授業を行いました。模擬授業や振り返りを通してこれまで講座で学んだクラスルームイングリッシュを実際に用いたり、外国語の授業づくりのポイントを学んだりすることができました。



－教師役と児童役の塾生－



－模擬授業の振り返り－

【連載シリーズ コラム⑫】

◆ 授業づくりのポイント⑦（学習指導における評価） ◆

東京教師養成塾教授 齋藤 辰雄

特別教育実習も後半に入り、各塾生は教師養成指定校において1日担任や連続実習を通して実践的指導力をさらに高めることに努めています。毎月の授業研究では、授業目標の達成に向け、学習内容を適確に押さえて授業を形成できるようになってきました。少しずつ実践的指導力が高まってきていることを感じます。

形成期(4～7月)の授業研究後の協議会では、指導案作成についての質問が多かったのに対し、育成期(9～12月)では、学習評価についての質問が多く見られるようになってきました。充実期(1～3月)を迎える前に学習評価の進め方について考えてみます。

【評価の進め方】

- ①単元又は題材の目標を設定する… 学習指導要領の目標と内容を踏まえる。児童・生徒の実態や学習状況等を踏まえる。学習内容のまとまりを踏まえて指導計画上の目標を設定する。
- ②評価規準を設定する… 設定した目標を踏まえ、児童・生徒がどのような学習状況を実現すればよいのかを想定する。観点ごとに設定し、おおむね満足できる状況を示す。
- ③評価規準を指導と評価の計画に位置付ける… 評価時期も踏まえ設定した評価規準と評価方法を指導計画に位置付け、指導と評価の計画を作成する。
- ④評価結果のうち記録に残す場面を明確にする… 児童・生徒の学習状況を把握して次の指導に生かす。どのような評価資料(児童の反応や作品など)を基に、どのような(おおむね満足できる状況の判断)目安で評価するかを考える。指導要録の記載に向けて観点ごとに評価結果を記録に残す。
- ⑤観点ごとに総括する… 評価資料や評価結果を基礎資料とし、観点ごとの総括的評価を記録する。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所 平成23年11月)にあるように、指導と評価は一体化していなければなりません。新学習指導要領(平成29年3月)では、「何が身に付いたか」という視点で学習評価についての改善・充実が求められています。評価規準の作成とともに評価方法を明確にし、学習評価の妥当性、信頼性を高めてください。

【連載シリーズ コラム⑬】

◆ 教師として求められること ◆

東京教師養成塾教授 坊野 美代子

教師は言うまでもなく、児童・生徒を「教育する」立場にあり、児童・生徒の人間形成に深く関わるため、「優れた人間性」を求められるのは当然のことでしょう。「東京都教員人材育成基本方針」(東京都教育委員会 平成27年2月)では、教育に求められる教師像として、次の4点を示しています。

- 1 教育に対する熱意と使命感をもつ教師
- 2 豊かな人間性と思いやりのある教師
- 3 子供の良さや可能性を引き出し伸ばすことができる教師
- 4 組織人としての責任感、協調性を有し、互いに高め合う教師

東京教師養成塾では、塾生が教育に使命感をもち人間性豊かな人材であることを前提に、教師養成指定校における特別教育実習を積み重ね、実践的指導力の育成を図っています。塾生への日々の指導の中から、良き教師となるために必要な力について整理します。

◇ 児童・生徒とコミュニケーションを図る力

子供を理解し、人間関係を築き、「やりとり」をする力を身に付けることが、授業実践・指導の前提である。自分自身も経験を広げ、子供を柔軟な発想で見ることが大切である。

◇ 児童・生徒の視点に立った指導・支援を行う力

「教える」だけでなく「学ばせる」。子供がどう学んだか、学んだことをどう生かせるか、を大切にする。教師の仕事に終わりはなく、自己研さんする力が求められる。

◇ 多くの人と協力・連携し教育を推進する力

教師一人で子供を育てるのではなく、同僚・家庭・地域など多くの人と協力・協同し教育を展開する。これからは、スクールカウンセラーや外部専門員との協同も求められる。

このような力を備え、良き教師として信頼され、期待される人材となるよう、引き続き育成して参ります。